



野山に自生する
ヤマユリ。「村の
花」です。

目次 CONTENTS

- 02 話題「ホタルが舞う夏の夜に」
- 04 特集「飯館村地域おこし協力隊」
- 10 学びの広場「たなばた会」ほか
- 11 生涯学習のページ「スポーツ交流会」ほか
- 12 お知らせ「安心・安全な水を村民のもとへ」
- 14 空から百景「星降る飯館」
- 16 お知らせ「第7次総合振興計画」
- 17 お知らせ「ふるさと納税に新たな返礼品」
- 18 いいたて便り
- 20 話題のパレット
- 22 村からお知らせ
- 24 なりわいREPORT
- 25 歴史の散歩道／ふれ愛館だより
- 26 いいたてPHOTOリレー ほか
- 27 愛楽故郷味／ひとのうごき
- 28 ほっとNEWS ほか

📷 今月の表紙



元飯館村地域おこし協力隊で「工房マートル」のキャンドル作家・大槻美友さんが、いいたて希望の里学園に勤務していた三浦有矢先生と結婚。入籍の当日、撮影にご協力をいただきました。美友さんが手にしているのは高橋日出夫さん（関根・松塚）が育てたデュモサ（スターチスの一種）のブーケです。P 4の特集記事もご覧ください。

村はイベントや取り組みを取材し広報紙やホームページに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613 までお知らせください。

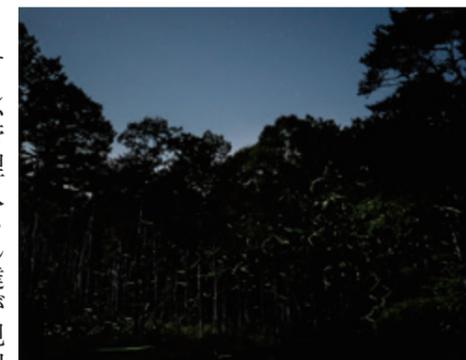
ホタルが舞う夏の夜に
淡い光が飯館の夏を静かに彩っています



村民の森あいの沢の木立の中で

7月上旬から中旬にかけて、村民の森あいの沢の夜を、ホタルの光が彩りました。
上下2枚の写真を撮影したのは、あいの沢で星空やホタルを撮影している仙台市の中村春太郎さん。彗星を撮影する場所を探していた時期にこの場所に巡り合い、数年前からあいの沢を訪れているそうです。
「あいの沢のキャンプ場は他に比べて涼しく過ごせま

すし、管理人さん達が親切。（復興が進んで）村が変わっていく様子を見ることが楽しみに訪れています」と中村さん。
静かで明かりが少ないあいの沢の環境は、多くの写真愛好家にも人気のスポットです。



あいの沢から古今明線に向かう林で。

あいの沢キャンプ場・管理棟近くの林で、日没と共に光を放ち始めるホタル。キャンプをしていた皆さんが「ホタルがいるよ」と声をかけ合い、光跡の行方を目で追い、幻想的な景色を堪能していました。あいの沢の管理人の皆さんが周辺の環境を大切に保全しています。

ゲンジボタルとヘイケボタルが共に暮らす長泥地区
大林組・技術研究所が3年間にわたり調査を行いました

2枚の写真の撮影者は、大林組の調査に参加する株式会社緑生研究所の金子賢太郎さん。



ゲンジボタル



ヘイケボタル

長泥地区でホタルを調査しているのは、大林組・技術研究所自然環境技術研究部の皆さん。環境再生事業の盛り土工事が終了するのに伴い、「何か地域の今後に役立つことを」と始められた取り組みです。

「(特定復興再生拠点区域等での)避難指示解除に向けた社内のワーキングから構想が生まれました」と振り返るのは、当初から調査に携わる同研究部の寺井学さん。初回の調査は、解除直後の令和5年5月から7月にかけて行われ、ホタルが生息している場所や生息数(成虫確認数)の記録を長泥行政区に提供しました。続いて令和6年・7年と調査は3年間に及んでいます。調査により明らかになったのは、ゲンジボタルとヘイケボタルが同じ場所で見られること。寺井さんによると「光を放つ時間帯や出現する期間が少しずれますが、約10か所の同じ場所でゲンジとヘイケが見られます」。今年は両生類の調査とセンサーカメラによる哺乳類の調査も合わせて行っているそう。「長泥地区はホタルにとって、ものすごくいい環境だと思います。飯館の子ども達に気軽にってもらえるような機会ができればと夢見ています」。



寺井さん(左)と金子さん。



▲ゲンジボタル



▲ヘイケボタル